

地域連携活動による短大生の衣服のアップサイクルの試み

An Attempt of Junior college students to upcycling clothing with regional cooperation

谷 明日香
Asuka TANI

要旨

本研究は、地域連携活動として幼稚園児と短大生が衣服のアップサイクル活動を実施し、その活動を通じた学生のジェネリックスキルの変化を明らかにすることを目的とした。

古着をアップサイクルする手法として、園児の切り絵作品をモチーフにその周りを園児の古着で装飾したロゼットを制作した。その結果、衣服のアップサイクルによるリサイクル率は20.9%となった。また、この活動を通じた学生の心情変化やジェネリックスキルの実態調査は、本学短期大学の学生12名を対象に全2回実施した。交流活動の実施前後の心情変化について自記式質問紙調査を行った結果、学生は実施前に不安を感じていたが、実施後には園児との言葉の交流やロゼットのプレゼントを通して心を通わすことができた嬉しさへと心情が変化した。このような活動を通じた学生の心情変化は、学びの達成感や自信につながるものであり、ジェネリックスキルの調査結果においても『対自己基礎力』が有意に向上した。今後は、地域連携活動のような学外活動の機会を増やし、学生が活動経験をスモールステップで重ねていけるプロジェクトを構築していくことが学生のジェネリックスキルの向上につながることを示唆された。

キーワード：地域連携 衣服のリサイクル アップサイクル ジェネリックスキル

1. はじめに

国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）の目標12「持続可能な消費と生産」“つくる責任つかう責任”において、廃棄物の発生防止と再利用を促すことの重要性が問われている。農業に次いで第2の水質汚染となっている繊維産業も例外ではなく、繊維を原料とする衣服は、その77%が可燃ゴミや不燃ゴミとして廃棄されている現状にある¹⁾。そこで、筆者は、環境配慮意識の向上につながるESD（持続可能な開発のための教育）¹⁾として、2015年より身近な衣服を題材としたリサイクル活動を実施している^{2) 3)}。学生は、衣服の廃棄・リサイクルの現状を知り、身近な衣服から環境へと視野を広げ、また、この活動を地域と連携して行うことにより、関わるヒトとの領域を学内（学生）から学外（地域の人）へと広げ、2年間の学びが地域社会

*1 ESDとは、環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につなげる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことをめざす学習や活動のこと

の中で活かされる体験を積むことができる。

短期大学部生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻（以下、本専攻）では、「豊かな教養と実務的な専門性を備えた社会に貢献できるビジネスパーソンを育成すること」をディプロマポリシーに掲げ、「社会で求められる基礎的な知識や社会人基礎力の習得」を身につける能力のひとつとしている。しかし、学外実習や課外活動の機会が少ない本専攻の学生にとって社会と接点をもって学ぶ機会はほとんどなく、自己肯定感の低さが指摘されている⁴⁾。一方、これまでに本専攻学生が参加したプロジェクト型学習では、実施後の自己肯定感の向上が確認されている^{5) 6)}。このようなプロジェクト型学習をスモールステップにより回数を重ね、経験を蓄積していくことが、さらなる自己肯定感の向上や社会において求められる実践力・対応力の育成につながっていくものと考えられる。

今回、本活動を通じた学生の学修成果は、汎用的技能を表すジェネリックスキルで評価する。中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて（答申）』において、ジェネリックスキルは知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な能力と位置付けており⁷⁾、さらに、中央教育審議会『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』では、学修者が学修の成果を実感できる教育を行っていくことの重要性が述べられている⁸⁾。本学においても、2017年度よりPROGテストが導入され、学生のジェネリックスキルを1年次（4月）と2年次（4月）の2回調査し、自分の状態を把握し、また、その変化を学生にフィードバックしている。しかしながら、2回目の調査時期までの1年間で、学生のどのような学びや経験がジェネリックスキルの変化に影響を与えたのかを具体的に実感する機会が少ないのが実情である。そこで、PROGテストを実施する2回に加え、さらに詳細に自分自身の学修の成果を確認する機会を増やすべく、プロジェクト型学習を企画するとともに、その活動の前後にジェネリックスキルの自己評価を行い、授業時間内で学生にフィードバックすることで自己省察する機会を設けた。本研究によりジェネリックスキルの変化を検証することは、今後の本専攻学生のジェネリックスキル育成のための教育的支援の一助になるものと考えられる。

2. 本研究の目的

本研究では、地域連携活動として幼稚園児の古着を活用した衣服のアップサイクル¹²⁾活動を実施する。活動を通して、短期大学部での学びを活かし、社会における課題発見・課題解決となる社会実装を試みるとともに、学生のジェネリックスキルの変化を明らかにすることを目的とする。

3. 活動時期と参加者

本活動は、2019年度の冬学期に開講される『ライフデザインゼミナールⅣ』の授業の一環として実施した。活動参加者は、本専攻の上記科目で筆者のクラスを履修する学生12名、大学に

¹²⁾ もともとの形状や特徴などを活かしつつ、古くなったものや不要だと思うものを捨てずに新しいアイデアを加えることで別のモノに生まれ変わらせること⁹⁾

隣接する羽曳野市立H幼稚園に所属する幼稚園児44名（5歳クラス：34名、4歳クラス10名）とその保護者であった。交流活動は、全2回（第1回：2019年10月25日、第2回2020年1月7日）実施した。

4. 倫理的配慮

活動に参加する幼稚園児とその保護者には、事前に活動の目的や内容などを示した説明書を配布し、各担任より口頭説明の上、活動への参加を希望する者は古着と同意書の提出により同意したとみなした。その結果、すべての保護者から同意が得られたため、幼稚園においても、授業内プログラムと位置付けて衣服のリサイクル活動を実施した。また、学生は、『ライフデザインゼミナールⅣ』の筆者のクラスにおいて衣服のリサイクル活動を実施することをあらかじめ提示し、その上で筆者のクラスを履修した学生12名が参加した。さらに、初回授業では、本活動の目的と内容を示した説明書を配布し、筆者より口頭説明の上、試作の自作ロゼットを提出することで本活動への参加について同意したものとみなした。

なお、本学は羽曳野市と連携を結んでおり、幼稚園への本専攻学生の派遣の依頼を受けている（羽教数学第3971号）。

5. 古着のアップサイクル方法

園児が「身につけたい!」と思うものにアップサイクルする工夫として、園児が自ら作成した切り絵作品をモチーフにしたロゼットの制作を試みた。ロゼットとは、中央パーツをリボンなどで装飾し、ブローチピンにより衣服や小物を装飾するバッチのようなものである。完成したロゼットの一例を図1に、制作手順の流れを図2に示す。制作では、被服実習室を大量のロゼットを生産する模擬工場と見立て、工程に合わせて分業体制を編成した。はじめに、学生は園児から回収した切り絵作品と古着を同一人物のものとなるよう照合し、整理・データ管理を行った。ロゼットの中央パーツに配置する園児の切り絵作品は、写真で記録し、その後、編集・加工によりデジタル化を行い、布にプリントした後、くるみボタンに仕上げた。くるみボタンの周囲には、切り絵作品を作成した園児の古着を活用し、フリル状に装飾した。さらに、ロゼ



図1 完成ロゼット作品一例

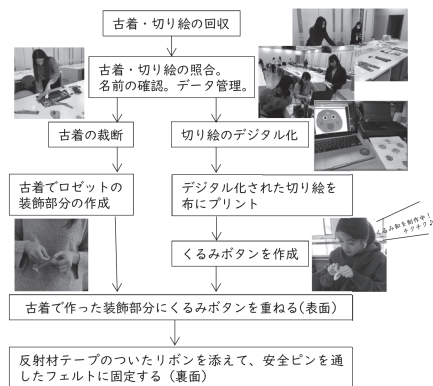


図2 ロゼットの制作手順

ットの後方に、蓄光糸（照射された光を蓄え、暗闇で自ら光る特性をもつ素材）という新素材を含んだりボンを添え、光ることによる交通安全や災害対策としての付加価値をつけた。

実際に作業が進行すると、各工程を分業・グループ化することで効率化や合理化が促進する一方で、全体を見通す俯瞰的視点を見失い自己完結型視点に陥る学生の姿がみられ、その結果、作品の完成度が不均一になった。そのため、仕上げの前段階で全作品を並べ、自分以外の作品に触れる機会を設けた。さらに、学生が最後まで責任をもって主体的に取り組む工夫として、学生1人に対して2～3名の園児の担当を割り振り、完成作品には制作者からのロゼットに込めた想いとしてメッセージカード（図3）を添えることとした。学生がメッセージカードにコメントを入力する際には、1回目の交流会での園児との触れ合いを思い出しながら作業する姿やロゼット制作時に込めた想いを記入する姿がみられ、園児に制作者としての気持ちを言葉で伝える機会となった。このような送り手と受け手の顔や心を通わせた言葉による伝え合いは、“つくる責任つかう責任”の土台となるモノへの愛着やモノを大切に作る心を育成する上でも意義深いものとする。さらに、作業の最終段階であるロゼットの検品と梱包は学生全員の眼でチェックを行った。その結果、作品のクオリティを均一化することの難しさ、市場に出回る商品の品質管理の高さを学ぶ機会となった。また、学生は、消費者の手に届くまでの制作者の労力や時間とそれに対する価格とのバランスについて思考する中で、消費者の一方的視点ではなく多角的視点でモノの価値について考えることの重要性を学ぶことができた。このことは、SDGsの目標12 [つくる責任つかう責任]の意味について実体験をもって深く理解することに繋がった。



図3 メッセージカード一例

6. 古着のリサイクル率の検証

回収した衣類の重さとロゼット制作に活用した衣類の重量（リサイクル重量）より、衣服のアップサイクルによるリサイクル率を式(1)の通り算出した。

$$\frac{\text{リサイクル重量(g)}}{\text{回収衣類の重量(g)}} \times 100 = \text{衣服のリサイクル率 (\%)} \dots\dots \text{式(1)}$$

回収衣類の重量とそのリサイクル率の結果を表1の通り平均±標準誤差で表している。回収衣料の重量は77.7 ± 41.5gであり、リサイクル率は20.9 ± 27.4%となった。環境省の調査によると手放された衣類のうちリサイクルされているのはわずか14%（2020）だという¹⁰⁾。本活動のリサイクル率はそれを上回る20.9%のリサイクルを実現した。しかし、ばらつきも大きく、回収した古着のアイテム面積の差や古着ではなく、余り布の提出があったことなどが影響していると考える。いずれにしてもペットボトルのリサイクル率は85.8%（2019）¹¹⁾であることを鑑みると、衣服のリサイクル率の低さを改善するものとは言い難く、効率の良い衣服のリサイクル方法について、今後も検討を続ける必要がある。

表1 回収衣類の重量とそのリサイクル率

| n=44 | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 回収衣類の重量(g) | リサイクル重量(g) | リサイクル率(%) |
| M ± SE | M ± SE | M ± SE |
| 77.7 ± 41.5 | 12.1 ± 17.5 | 20.9 ± 27.4 |

7. 短大生と幼稚園児の交流活動

(1) 第1回交流活動 ―園児にわかりやすく伝える―

2019年10月25日に羽曳野市立H幼稚園にて、1回目となる交流活動を実施した。交流会の流れを表2に示す。学生は、1限終了後に幼稚園へ移動し、園児は、切り絵作品（4歳クラス：名前の代わりに表す「自分のマーク」、5歳クラス：「自分の顔」）を仕上げながら学生の到着を待った。学生は各クラスの人数に応じて、5歳クラスには9名、4歳クラスには3名が入室した。第1回交流会の目的は、園児と短大生が顔を合らし、お互いを知り、コミュニケーションをはかること、そして、本活動の意義や目的を伝えることである。本活動の意義や目的を伝える手法として、紙芝居形式を用いた。紙芝居は、前橋市が作成した紙芝居「たいせつにね」¹²⁾を参考に学生が作成したものである。手遊びをしてお互いに緊張をほぐした後、この紙芝居を用いてモノを何でも捨ててしまうと街が汚れてしまうことやリサイクルすることでモノの次の使い道があることを伝えた（写真1）。紙芝居の途中では、学生が「小さくなった衣類、みんなだったらどうする？」と園児に問いかける姿があり、コミュニケーションをとりながら紙芝居を進めた。園児の豊かな反応と表情に次第に学生の緊張が解けていく様子がみられた。このような異年齢との関わりは教室の中での学修では得がたく、学生と園児が交わす視線や学生が園児の様子を見て進め方を調整する姿からは、「自分（学生）が何をしたかより、園児に何が伝わったか？」を意識する多角的視野をもった表現力を身につけている様子が窺えた。一方、園児側からは切り絵作品を示し自らの言葉で発表した。最後に、お別れの



写真1 読み聞かせの様子

挨拶では、次回は学生が園児の古着をロゼットにアップサイクルして持ってくることを共通理解し、次回の活動への期待につなげた。

(2) 第2回交流活動 ―グループで連携して進行する―

2020年1月9日に羽曳野市立H幼稚園にて、2回目となる交流活動を実施した。交流会の流れを表3に示す。第2回交流会の目的は、園児に完成したロゼットをプレゼントすること、学生が2年間で修得した知識・技能が地域・社会の中で活かされる体験をすることである。最初に、前回の交流会同様、学生が作成した紙芝居「たいせつにするね」を読み聞かせ、前回の交流会のふりかえりを行った。そして、園児から回収した古着と切り絵を用いてロゼットの制作過程を画用紙に描いた絵で示しながら伝えた。その後、園児一人ひとりの名前を読み上げ、メッセージとともにロゼットを手渡した。ここでは、学生が①園児の名前を呼ぶ係②ロゼットとメッセージカードを準備する係③ロゼットとメッセージカードを手渡す係④園児の胸にロゼットをつける係に分担して配布した(写真2)。それぞれが視線を合わせながら合図を送り進行している姿からは、ロゼット制作や交流会準備で培った「協働力」が発揮された。その後、5歳クラスの園児は受け取った感想を次々に挙手して自分の言葉で発表し、4歳クラスの園児は、全員で大きな声で感謝の気持ちを伝え、また、歌を披露した。このような園児の「言葉による伝え合い」は、幼稚園教育要領に示される“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”のうちの一つでもある¹³⁾。学生は、最後に今後“ものをたいせつする気持ち”を忘れないことを約束し、お別れの挨拶とした。



写真2 完成したロゼットを手渡し、園児の胸につける学生の様子

表2 第1回交流活動の流れ

| 【衣服のリサイクルプロジェクト】 関児の切り絵作品・古着を活用したロゼット制作 | | | |
|---|--|---|----|
| 第1回 (全2回) | 一緒に切り絵を楽しもう！ 関児：「切り絵」に楽しんで取り組む、クラスメイトや短大生と一緒に活動する。 ねらい 短大生：関児との交流をとおして、関児の作品への思いを知り、ロゼット制作に活かす。 | 日時・場所 2019年10月25日(金)11:10-12:00 羽曳野市立生涯学習館 関児：「切り絵」の作品に取り組み、クラスメイトの作品の思いを聞いたり、自分の作品への思いを伝えたりする。 短大生：関児と一緒に「切り絵」を楽しむ。ロゼットを制作して1月にもって行くことを伝える。 | 内容 |
| 時刻 ～10:40 | 幼児の活動 (○) | 短大生の活動 (○) | 備考 |
| 10:55～ | 切り絵の作成 短大生が中大型印刷機、移動 ＜準備するもの＞ ・上履き持参 (靴袋も) ・紙芝居 (各チーム) | 1H終了 ・幼稚園までは、必ず登壇で参加のこと | |
| 11:12～ | 短大生が入室 幼稚園到着、各クラスへ入室 ＜準備＞ □上履きに履き替え、靴は靴袋に入れる □荷物、靴袋を持って、各組に入室する □教室の角に荷物をまとめて置く □リーダーは担任の先生にご挨拶と連絡事項の確認をする □紙芝居の準備 □関児にご挨拶、交流開始 | 5歳クラス(関児:33名、学生:9名) 4歳クラス(関児:9名、学生3名) 例： ・「こんにちは！」と明るく挨拶を交わす。 ・「何作っているの？」「これは何？」「ステキなの作っているね」「これどうやって作ったの？」など声かけをし、関児が楽しく活動できるようにする。関児と交流を深める。 ・お祈りの歌い読みやお祈り歌を付けない字などに声かけをして、一緒に片付ける | |
| 11:25～ | お祈り歌 | | |
| 11:30～ | プロジェクト説明 関児並により、紙芝居「大切にするね」をお話する プロジェクトの説明をする ○短大生の話を聴く ＜陳形＞ □関児の前 (黒板前) に一列で並ぶ ○短大生を前に半円状に並んで床に座る | 関児が関児の話を聴く ・短大生が関児の話を聴く「紙芝居」によって関児に伝え、これから行うプロジェクトについて説明する ・ものを大切にする気持ちを紙芝居を通して伝える。 ・説明中も関児のリアクションに耳を傾け、声かけをしたり対応する (話している人以外の人がサポートするといいかも…) | |
| 11:35～ | 完成した切り絵のお披露目TIME! ＜陳形＞ □半円状に並んで関児に渡して床に座る ○半円状に並んで座る、1人ずつ前にでて、完成した切り絵をみんなに見せる | 関児の切り絵の完成作品は後日に持ち帰る。 | |
| 11:45～ | お別れの時間 ＜陳形＞ □短大生は黒板前に一列に並ぶ ○関児は短大生と向かい合うように半円状に並んで床に座る □今日のおれとお別れのご挨拶をする 例： 「今日みなさんと一緒に過ごせてとても楽しかったです。私たちは、みんなの切り絵を持ち帰って、ロゼットにリメイクして、1月にもたもってきます。楽しみにしていてくださいね！またね！」 | 今日のおれと切り絵の今後について共通理解をし、次回の活動への期待につながるようにする。 | |
| 11:50～ | 送迎の準備 ＜陳形＞ □荷物を持って速やかに退室する(※ドア前でまごつかない！) □先生方にご挨拶をする □玄関で靴に履き替える | 例： 「元気だね、バイバイ！」 □荷物を持って退室する □短大生は黒板前に一列で並ぶ ○関児は短大生と向かい合うように半円状に並んで床に座る □今日のおれとお別れの挨拶をする | |

四天王寺大学短期大学部 生活ナビゲーション学科 ライフデザイン専攻

表3 第2回交流活動の流れ

| 【衣服のリサイクルプロジェクト】 関児の切り絵作品・古着を活用したロゼット制作 | | | |
|---|--|---|---|
| 第2回 (全2回) | 切り絵がロゼットに大变身！ (プレゼントの会) | 日時 場所 | 内容 |
| ねらい | 関児：世界にひとつだけの自分だけのロゼットを受け取る。異世代交流を楽しむ。 短大生：2年間で学修した知識・技能を地域・社会に活かす体験をする。 | 2020年1月10日(金)11:10-12:00 羽曳野市立生涯学習館幼稚園 | ③第1回目の交流会のふりかえり(紙芝居による説明) ④関児一人ひとりの作品を披露し、コメントとともに本人に手渡す(各クラス) |
| 備考 | 関児に手渡すもの：①ロゼット②作品カード 幼稚園にお渡しするもの：作品一覧カード | | |
| 時刻 | 幼児の活動 (○) | 短大生の活動 (○) | 留意点 |
| ～10:40 | | 1H終了 | |
| 10:55～ | | 四天王寺大学正門前集合、移動 ＜持参するもの＞ ・上履きと靴袋 ・リーダー：紙芝居 | 幼稚園までは必ず徒歩で向かうこと ※関児にお渡しする①ロゼットと②作品カードはすでに幼稚園にお渡し済み |
| 11:15～ | 短大生が入室 ＜陳形＞ ○短大生を前に半円状に並んで床に座る | 幼稚園到着、入室 ＜準備＞ □上履きに履き替え、靴は靴袋に入れる □上履きと荷物、靴袋を持って、各組に入室する □教室の角に荷物をまとめて置く □紙芝居の準備 ＜陳形＞ □関児の前に黒板前に一列で並ぶ | 5歳クラス (関児:33名、学生:9名) 4歳クラス (関児:10名、学生:3名) |
| 【はじめに】 | | | |
| 11:20～ | ○ご挨拶 (お明るく！元気に！) ○関児は前に立つ短大生の話を聴く ○第1回交流会のことを覚えているかを振り返る ○前回紹介した紙芝居「大切にするね」を読み聞かせる。 ○前回関児が制作した「切り絵」と「古着」を使ってどのようにロゼットに完成したのかを伝える (ポスター2枚提示)。 (※説明中も関児のリアクションに耳を傾け、声かけをしたり対応する(話している人以外の方がサポートする)) | | 例： 「元気だった？」 「9月に一度、みんなに会いに来たの覚えてますか？」 「前回みんなが制作した切り絵は、お姉さんたちが制作する大学に持ち帰って…(中略)…ロゼットを作ってきた！」 「今日はロゼットをみんなに1人ずつプレゼントしますね」 |
| 【展 開】 | | | |
| 11:27～ | ロゼット手渡しTIME! ○名前を呼ばれた関児から、学生のところへ出て来る □制作者は作品カードを関児に手渡す。関児が前に来たら一言コメントを言って、手渡す。 (※クラスのお友だちにも聴かせるように伝える。) ○関児はもとの場所に戻って座る □制作者以外のメンバーが、関児が座った後、胸にロゼットをつけてあげる | | 例： 「〇〇くんは、大きな口をあけたかエルさんの切り絵を作ってくれました！」 |
| 11:45～ | 見せ合いっこTIME! ○関児は立ち上がり、自由に動き回って、お友だち同士で自分のロゼットを見せ合いっこをする ○短大生が黒板前に並列したら見せ合いっこTIME！終了。関児は短大生を前に半円状に並んで床に座る | | 例： 「今から、見せ合いっこTIME!を始めます。お友だちのロゼットをみたり、自分のロゼットをみせてあげましょうね。」 |
| 【おわりに】 | | | |
| 11:50～ | お別れの時間 ＜陳形＞ □短大生は黒板前に一列で並ぶ ○関児は短大生と向かい合うように半円状に並んで床に座る □今日のおれとお別れの挨拶をする | | 例： 「いろんなロゼットができたね、自分のロゼットは気に入ってくれましたか？」 「どの切り絵の作品もとても素敵だったので、その良さに負けないように一生懸命作りました。大切に使ってもらえたら嬉しいです。」 |
| 12:00 | 送迎の準備 ＜陳形＞ □荷物を持って退室する □玄関で靴に履き替え、上着を着用する □先生方にご挨拶を言う □退室する | 例： 「元気だね、バイバイ！」 | |

四天王寺大学短期大学部 生活ナビゲーション学科 ライフデザイン専攻

8. 学生の学修効果の検証

(1) 交流活動を通じた学生の心情変化

全2回の交流活動実施後には、毎回、実施前後の気持ちを調査した。ここでは、第1回交流活動の実施前の気持ちの記述と第2回交流活動の実施後の気持ちの記述の比較から学生の心情変化を分析した。

調査対象は、本専攻の『ライフデザインゼミナールⅣ』を受講した12名である。調査方法

は、自記式質問紙調査とし、評価用紙の配布および回収は、学内ネットワーク IBU-net 上で行った結果、回収率は 100% であった。

分析には、KH coder3 を用い、自由記述で用いられた語句の出現回数を算出し、どの語がどのくらい挙げられているのかを把握した。さらに、出現された語の前後の文脈から交流活動に参加した学生の心情変化を定性的に分析した。

その結果、交流活動実施前後に学生が自由記述で記した文字数は、実施後で 18.3 文字増え（実施前：平均 122.1 文字、実施後：平均 140.4 文字）、より具体的な記述内容がみられた。これらの自由記述で用いられた語の中から、5 回以上出現した単語を出現回数順に示した結果を表 4 に示す。なお、実施前（後）に出現し実施後（前）に出現しなかった語句を点線で示している。中でも、実施前の抽出語からは「不安」に着目し、実施後の抽出語からは「嬉しい」に着目し、その語が用いられた記述を精読し、学生の気持ちの変容を明らかにするべく、コードを付与して分類した。また、それぞれのコードに対応する記述を記したものを表 5 および表 6 に示す。

交流活動実施前の抽出語「不安」については、2 種に分類された（表 5）。園児を前に「手遊びや紙芝居をちゃんとできるか不安」といった記述から自分に対する不安が読み取れた。また、「園児が楽しんでくれるか不安、一緒にやってくれるか不安、反応してくれるか不安」といった記述からは相手に対する不安が読み取れた。交流活動実施後の抽出語「嬉しい」については、2 種に分類された（表 6）。「園児と触れ合うとめっちゃ楽しくて、喜んでくれる姿を見れて嬉しかった」、「ちゃんと静かに聴いてくれて、問いかけると答えてくれたり、いっぱいお話してくれたので嬉しかった」といった記述からは園児との交流の中での気持ちの変化が読み取れる。また、「ロゼットを渡したとき、すごい笑顔で喜んでくれて嬉しかった。」、「自分が作ったロゼットを自分で園児につけられて嬉しかった。」という記述からはロゼットの配布を通して園児と心を通わせる様子が読み取れる。

以上の分析より、交流活動実施前は、学生は自分の役割を果たせるかという自分に対する不安と予測不能な相手の反応に対する不安があったことが明らかとなった。このことは、交流活動が一方向のものではなく、園児と短大性による双方向によるコミュニケーションのもとで成立するものであることと本番までどうなるかわからないリアルな体験をする機会になったことを意味している。また、最初は「不安」ながら実施した学生の言動が、園児から感謝の言葉や歌声といった反応となり返ってきた「嬉しさ」は達成感や自信につながる経験となったものと考えられる。

表 4 交流活動実施前後の学生の記述より多く出現した語

| 実施前 | | 実施後 | |
|------|------|-------|------|
| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
| 園児 | 20 | 思う | 17 |
| ロゼット | 11 | ロゼット | 14 |
| 作る | 10 | 嬉しい | 14 |
| 不安 | 10 | 喜ぶ | 13 |
| 思う | 9 | リサイクル | 10 |
| 楽しい | 6 | 衣服 | 10 |
| 行う | 6 | 作る | 9 |
| 紙芝居 | 6 | 園児 | 8 |
| 楽しむ | 5 | 捨てる | 6 |
| 緊張 | 5 | 覚える | 5 |
| 行く | 5 | 楽しい | 5 |
| 製作 | 5 | 楽しみ | 5 |
| | | 自分 | 5 |

表5 第1回交流活動実施前の学生の感想
—抽出語「不安」の分析—

| コード | 記述内容 |
|----------|---|
| 自分に対する不安 | 幼稚園に行くのがとても久しぶりだったので楽しみと緊張と不安でしたが、不安と緊張でいっぱいだった。でも、園児を前にその不安はいつの間にかどっかに飛んでいった。 手遊びや紙芝居をちゃんとできるか不安だったが、楽しみしていたものの上手でできるか少し不安な気持ちもありました。はじめは不安もあったけど、楽しい気持ちもあってワクワクしていました。 |
| 相手に対する不安 | 園児が楽しんでくれるのか不安で緊張でいっぱいでしたが、手遊びや紙芝居など一緒にやってくれるか、仲良くできるか不安だった。園児が、紙芝居をちゃんと聴いてくれるか、反応してくれるか不安だった。どんな子がいるのか、話しかけてくれるかなと不安よりも楽しみが勝っていました。 |

表6 第2回交流活動実施後の学生の感想
—抽出語「嬉しい」の分析—

| コード | 記述内容 |
|---------|---|
| 園児との交流 | 着いた瞬間から叫んで呼んでくれてめっちゃ嬉しかったです。 園児と触れ合うとめっちゃ楽しくて、喜んでくれる姿をみれて嬉しかった。 ロゼットのこともちゃんと覚えてくれていて、楽しみにしてくれていて本当に嬉しかった。 覚えてくれているか不安でしたが、私たちの顔も覚えてくれていて嬉しかった。 私たちが想像する以上に真剣に話を聴いてくれて嬉しかった。 何より喜んでくれたことが1番嬉しかった。 ちゃんと静かに聴いてくれて、問いかけると答えてくれたり、いっぱいお話してくれたので嬉しかったし、楽しかったです。 歌のプレゼントをくれたのがとても嬉しかったです。 |
| ロゼットの配布 | ロゼットを渡した時、すごい笑顔で喜んでくれて嬉しかった。 ロゼットを渡すとすごく喜んでくれて、ありがとう！とってくれてとても嬉しかった。 自分が作ったロゼットを思った以上に喜んで受け取ってくれる姿を見て嬉しかったです。 自分が作ったロゼットを自分で園児につけられて嬉しかった。 ロゼットを園児一人ひとりの服につけてあげながら触れ合うことができ、楽しかったし、仲良くなれて嬉しかった。 「今日は早く寝て、光るのみる！」とってくれて嬉しかったです。 |

(2) 学生のジェネリックスキルの変化

2019年度冬学期開始時期の9月と終了時期の1月に、PROGに示されるジェネリックスキルの2つの側面（リテラシー・コンピテンシー）のうち、コンピテンシーであげられる3つの能力と9つの能力要素を問う調査を行なった。評価用紙は、本専攻学生が抵抗感なくスムーズに、且つ、正確に回答しやすいように筆者が作成したものをを用いた。評価は、5：優れている、4：やや優れている、3：標準的、2：やや劣る、1：劣るの5段階とした。調査対象と評価用紙の配布および回収方法については前項と同様であり、回収率は100%である。分析には、統計ソフトExcel統計を用い、活動前後の評価の差はWilcoxonの符号付き順位検定で検討した。なお、有意水準は5%とした。

その結果、各項目の自己評価合計得点の平均±標準誤差を図4および表7に示す。「対人基礎

力」は、活動前において全ての項目で4.3点以上と高い値を示し、“やや優れている”から“優れている”のレベルであると評価していた。活動後には、協働力で最も高い4.5点を示した一方、親和力(-0.1)や統率力(-0.2)でやや低下した。「対自己基礎力」は、全ての項目で活動後に0.5～0.6点上昇し、“標準的”と評価していた学生も“やや優れている”から“優れている”のレベルへと評価が上昇した。特に、「感情制御力」(中央値 = 4.00, $p = 0.049$)と、「行動持続力」(中央値 = 4.00, $p = 0.043$)においては、有意にスキルが上昇したことが確認された。「対課題基礎力」においては、活動前において全ての項目で3.4～3.8点と“標準的”から“やや優れている”のレベルと評価しており、活動後は同じか0.1～0.2点の上昇とやや評価が高まる傾向がみられた。

学生は、本活動において個人の学びから地域・社会・環境へと視野を広げ、同時に、関わる人々もクラスメイトに加え地域の人も協働していく中で、対自己基礎力や対課題基礎力の向上を実感したものと考える。一方、対人基礎力である親和力と統率力の低下については、本活動を経験することで自己省察した結果、スキルを発揮する難しさを知ったことを意味するものとする。実際、ロゼットの制作場面において、親和力をもって活動を進める気持ちがあっても指示を待ち行動に移せない学生や主体的に統率力を発揮し指示を出すやり方やタイミングが図れない学生もいた。また、進度の差も出始めると、進度の早い学生が制作工程や完成品を確認しながら、効率よく作業を進めるためにどうすればうまくスムーズに進行するかを考え、PDCAサイクルを意識し、計画し導く姿もあった。しかしながら、自分がうまくいった方法が必ずしも他の学生がうまくいくとは限らず、技術や経験には個人差があり、それを認め合い、得手不得手の特性を生かし合い手分けして協働する方法を試行錯誤する姿もあった。その結果が、対課題基礎力がやや上昇した結果に表れているものとする。また、対自己基礎力では、全ての項目で上昇がみられ、対自己基礎力は個人の活動で能力を高めただけでなく、チームで活動する中で相乗的に効果が高まった結果と推察する。

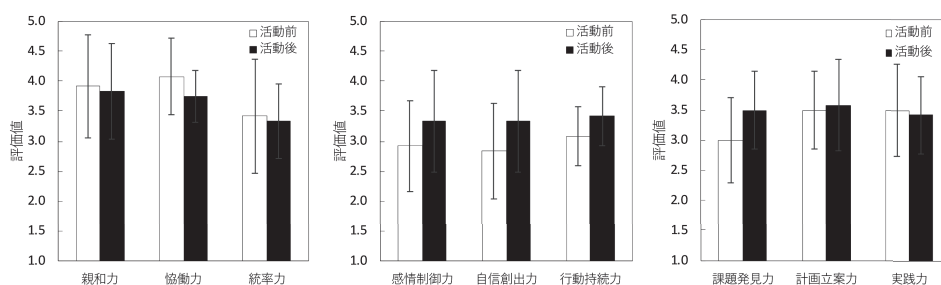


図4 活動前後のジェネリックスキルの変化

表7 活動前後のジェネリックスキルの関連

| | | | M ± SE | 最小値 | 最大値 | 中央値 | z 値 | p |
|--------|-------|---|-----------|-----|-----|-----|-------|---------|
| 対人基礎力 | 親和力 | 前 | 4.4 ± 0.6 | 3 | 5 | 4.5 | 0.913 | 0.361 |
| | | 後 | 4.3 ± 0.9 | 2 | 5 | 4.5 | | |
| | 協働力 | 前 | 4.3 ± 0.6 | 3 | 5 | 4.0 | 0.592 | 0.554 |
| | | 後 | 4.5 ± 0.5 | 4 | 5 | 4.5 | | |
| | 統率力 | 前 | 4.3 ± 0.6 | 3 | 5 | 4.0 | 0.943 | 0.345 |
| | | 後 | 4.1 ± 0.6 | 3 | 5 | 4.0 | | |
| 対自己基礎力 | 感情制御力 | 前 | 3.6 ± 0.6 | 3 | 5 | 3.5 | 1.960 | 0.050 * |
| | | 後 | 4.2 ± 0.7 | 3 | 5 | 4.0 | | |
| | 自信創出力 | 前 | 3.8 ± 1.1 | 2 | 5 | 4.0 | 1.677 | 0.093 |
| | | 後 | 4.3 ± 0.7 | 3 | 5 | 4.5 | | |
| | 行動持続力 | 前 | 3.6 ± 0.8 | 3 | 5 | 3.0 | 2.023 | 0.043 * |
| | | 後 | 4.0 ± 0.8 | 3 | 5 | 4.0 | | |
| 対課題基礎力 | 課題発見力 | 前 | 3.4 ± 0.8 | 2 | 5 | 3.0 | 0.592 | 0.554 |
| | | 後 | 3.6 ± 0.9 | 2 | 5 | 3.5 | | |
| | 計画立案力 | 前 | 3.8 ± 0.7 | 3 | 5 | 4.0 | 0.000 | 1.000 |
| | | 後 | 3.8 ± 0.8 | 3 | 5 | 4.0 | | |
| | 実践力 | 前 | 3.8 ± 0.8 | 3 | 5 | 4.0 | 0.405 | 0.686 |
| | | 後 | 3.9 ± 0.8 | 3 | 5 | 4.0 | | |

Wilcoxon の符号付き順位検定 * $p < 0.05$

9. 結論

地域連携活動としての幼稚園児の古着を活用した衣服のリサイクル活動を実施した結果、以下の通りの結果が得られた。

- ① 衣服のアップサイクルによるロゼット制作による衣服のリサイクル率は20.9%であった。
- ② 地域連携という異年齢交流による多角的視野の広がりや人と心を通わす経験がジェネリックスキルの向上に繋がった。
- ③ ジェネリックスキルは、「対自己基礎力」「対課題基礎力」において上昇した。特に、「対自己基礎力」においては活動後に有意に上昇し、チームや社会で活動する中で相乗的に高まることが示唆された。一方、「対人基礎力」においては経験を積むことで難しさを理解し、特に、親和力や統率力において低下がみられた。

以上の結果より、今後は、学生のジェネリックスキルの向上に向けて、地域連携活動のようなプロジェクト型学習をスモールステップで複数回参加していくことが学生の学習意欲の継続や自己肯定感の上昇、さらには、ジェネリックスキルの向上につながっていくことが示唆された。

謝辞

本研究にご協力くださいました羽曳野市立H幼稚園 有馬愛子氏をはじめとする先生方、および、アンケートにご協力くださいました方々に心よりお礼申し上げます。なお、本研究は、「2019年地域課題解決研究奨励金」（地奨申-第5号）の支援により実施されました。ここに記して謝意を表します。

付記

論文に掲載の写真については、掲載の許可を得ている。

引用文献

- 1) 外務省国際協力局 (2017) 「持続可能な開発のための 2030 アジェンダと日本の取り組み」 p.2-3
- 2) 谷明日香, 小野寺美和 (2016) 「実践的な社会人基礎力育成のためのサービスラーニングの試み——幼稚園児の古着と切り絵を用いた防災アイテムの製作」(四天王寺大学教育実践論集, Vol.2) p.65-80
- 3) 谷明日香 (2020) 「環境配慮に対する意識調査と衣服のリサイクル活動実践」(四天王寺大学教育実践論集, Vol.9) p.1-10
- 4) ベネッセ i-キャリア (2017); ライフデザインゼミナール I・II 報告書, p13,
- 5) 谷明日香, 葭矢峰世 (2018) 「分野間連携による学修効果促進のための取り組み——第 10 回ヘアメイク選手権への挑戦——」四天王寺大学教育研究実践論集, Vol.5, p.97-105
- 6) 谷明日香 (2018) 「羽曳野ぶどうの皮を用いた染色衣装によるファッションショーの取り組みと学生の学修効果」四天王寺大学 教育研究実践論集, Vol.6, p.47-58
- 7) 中央教育審議会 (2008) 『学士課程教育の構築に向けて (答申)』
- 8) 中央教育審議会 (2018) 『2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申)』
- 9) 一般社団法人日本アップサイクル協会 「アップサイクルとは」 <https://upcyclejapan.org/upcycle/> (2021 年 3 月 29 日確認)
- 10) 環境省 「環境とファッション (調査報告)」 (https://www.env.go.jp/policy/pdf/st_fashion_and_environment_r2gaiyo.pdf: 2021 年 06 月 12 日確認)
- 11) PET ボトルリサイクル推進協議会 「リサイクル率の算出」 <http://www.petbottle-rec.gr.jp/data/calculate.html> (2021 年 2 月 19 日確認)
- 12) 前橋市 「幼児向けゴミ減量紙芝居を作製しました」 https://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi_tetsuzuki/1/2/4/10388.html (2019 年 7 月 14 日確認)
- 13) 「幼稚園教育要領」文科省, https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_2.pdf, (2021 年 4 月 22 日確認)